

令和2年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析 (第2回)

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 1			<教務部>																								
	生徒	保護者	教員																								
	あなたは、朝の基礎学習に取り組んで学力がついてきている。	-	生徒は、朝の基礎学習に取り組んで学力がついてきた。																								
結果	<table border="1"> <caption>調査結果 (朝の基礎学習)</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>8%</td> <td>70%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>27%</td> <td>53%</td> <td>17%</td> <td>3%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A	B	C	D	無回答	教員	8%	70%	20%	0%	3%	保護者	-	-	-	-	-	生徒	27%	53%	17%	3%	0%
対象者	A	B	C	D	無回答																						
教員	8%	70%	20%	0%	3%																						
保護者	-	-	-	-	-																						
生徒	27%	53%	17%	3%	0%																						
原因及び反省	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に慣れやマンネリ化、教員生徒共に緊張感の薄れがあるのではないかと。また、基礎学が成績に反映されるか、されないかで教科により取り組み状況が異なるように見える。 ・実施形態が、学力を測れるものになっているのか検証時期にきている。 ・ほとんどの生徒が「取り組み」はできているが、結果が見えてこない。 ・教員の90%が朝の学習が学力の定着につながっている実感がないとしたら、何か手立てを打たなければならないのではないかと。本校生徒の実態を考えれば、教員が「だいたい」の評価で取り組んでいる意識で、「学習」を身に付けさせることは難しいだろう。 																										
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の予習、復習としての活用はできないか？ ・成績個票を出し、結果を見せるのはどうか。 ・まず「何を頑張ればいいのか」をはっきりさせる学習指導が、本校生徒の実態に合っているのではないかと。例えば、科目を4週間毎でのローテーション実施。農業も学科で作問することが望ましい。 ・教員側が「だいたい」で取り組んでいる意識を変え、教師側の意識を改善する。 																										

意識調査No. 2			<教務部>																								
	生徒	保護者	教員																								
	あなたは、家庭で勉強をしている。	お子さんは、家庭で勉強をしている。	あなたは、家庭で学習できる指導をしている。																								
結果	<table border="1"> <caption>調査結果 (家庭での勉強)</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>13%</td> <td>63%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>14%</td> <td>37%</td> <td>44%</td> <td>6%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>9%</td> <td>22%</td> <td>50%</td> <td>19%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A	B	C	D	無回答	教員	13%	63%	20%	0%	5%	保護者	14%	37%	44%	6%	0%	生徒	9%	22%	50%	19%	0%
対象者	A	B	C	D	無回答																						
教員	13%	63%	20%	0%	5%																						
保護者	14%	37%	44%	6%	0%																						
生徒	9%	22%	50%	19%	0%																						
原因及び反省	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は期末テストのみだった。目標設定のある学習姿勢をとる機会が減った。その結果「これくらいいいや」という学習で2学期にのぞみ、成績不振者の増加にもつながったものではないかと。 ・教科では自宅で取り組む課題、いわゆる宿題を出しているのか。自主的に取り組む姿勢を育みたいという理想はあるが、朝の学習同様「何を、どう頑張ればいいのか」を示した課題を教員側が出していなければ、生徒も反応しようがない。 ・生徒の実態に合った指導法をとった上で、質問する内容なのではないかと。 																										
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高まりは、学習の取り組みを向上させる。目標を持つことの重要性を説き、何事にもチャレンジさせていく指導を行う。 ・宿題については、生徒がオーバーワークにならない出し方をすることも考える必要がある。教員側の添削の負担も考慮する必要等、課題はあるが、話し合いを持って、教員側から具体的なアクションをとる時期にきているのではないかと。 																										

令和2年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析 (第2回)

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 3		<教務部>	
	生徒	保護者	教員
	先生方はわかりやすい授業の工夫をしている。	あなたは、授業参観の機会があれば参加したいと思っている。	あなたは授業の工夫改善に努めている。
結果	教員	A, 45%	B, 55% C, 0%
	保護者	A, 30%	B, 43% C, 25% D, 2% 無回答, 0%
	生徒	A, 29%	B, 57% C, 12% D, 2%
		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	
原因及び反省	<ul style="list-style-type: none"> ・今年、第1回、第2回の教員の意識は高い水準が保つことができている。ICT教材の活用、特にプロジェクターの使用は定着してきている。 ・学習内容が高校入学当初より難しくなっていることも生徒の結果には、影響している。 ・保護者はコロナ禍であるため学校への来校は避けたい (避けた方が良く) という心境ではないか。 		
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教科においても身近なものから興味・関心を導くのは有効である。 ・体験と知識の結びつきを持たせ、「日常で役に立つ」、「生きていく上で、どう役に立つ」のか、それを理解させる授業の導入やまとめの在り方を工夫する必要がある。 ・学習支援員のフォローを教科内でも必要としてほしい。年度末の次年度時間割の事情調査の段階で、具体的にどのクラスの時間に要望するか、各科で検討してほしい。2% (約5名) の生徒はSOSを出している。 	

意識調査No. 4		<生徒指導部・保健部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、遅刻・欠席・早退をしないように心がけている。	あなたは、お子さんが遅刻・欠席・早退をしないように努めている。	あなたは、生徒が遅刻・欠席・早退をしないように指導している。
結果	教員	A, 45%	B, 53% C, 3% D, 0%
	保護者	A, 65%	B, 30% C, 2% D, 2%
	生徒	A, 65%	B, 24% C, 10% D, 1%
		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	
原因及び反省	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者の意識が同レベル、生徒へのアプローチの仕方、危機感が必要である。 ・9割の生徒は意識している残り1割の生徒へのアプローチが不十分であった。 ・遅刻指導があいまいな部分があった。 		
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻指導の明確化など、遅刻指導の改善を図る。 ・生徒指導部 (登校指導担当) と担任間での連携が必要である。 ・遅刻指導の手順の明確化。 	

令和2年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析 (第2回)

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 5		<生徒指導部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは服装・頭髪など、自らの身だしなみを整えている。	学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。	学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。
結果	教員	A, 38%	B, 55% C, 5% D, 3%
	保護者	A, 53%	B, 39% C, 5% D, 3% 無回答, 0%
	生徒	A, 50%	B, 38% C, 11% D, 1%
原因及び反省	<ul style="list-style-type: none"> 一部の生徒への指導が不十分であった。 		
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 預かり指導等、新しい指導を提案していく。 		

意識調査No. 6		<生徒指導部・農業部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。	お子さんは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。	あなたは、生徒が部活動や農業クラブに積極的に参加して活動するように指導している。
結果	教員	A, 40%	B, 50% C, 10% D, 0%
	保護者	A, 45%	B, 25% C, 22% D, 7% 無回答, 0%
	生徒	A, 36%	B, 28% C, 24% D, 11%
原因及び反省	<ul style="list-style-type: none"> 例年、年度末に「C」、「D」の評価が増える中、よく部活動や農業クラブへの参加が維持できた。 		
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 施設の充実、コロナの影響で例年より予算が余った分を次年度への活性化につなげる。 		

令和2年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析 (第2回)

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 7		<生徒指導部・保健部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、高校生活をとおして以前より自信が持てるようになった。	お子さんは、高校生活をとおして以前より自信を持つようになった。	生徒は、学校生活をとおして以前より自信を持つようになった。
結果			
	<p>原因及び反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で制限がある中でも行事等を実施し、生徒の活躍の場を設定したことが高い数値につながった。 		
	<p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度もできる限り対策方法を見つけながら行事を行っていく。 		

意識調査No. 8		<進路指導部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。	お子さんは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。	生徒は、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。
結果			
	<p>原因及び反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員、保護者、生徒とも第1回と比べて大きな変化は見られなかった。 ・インターンシップ、職業インタビューと大きな進路行事があったものの大きな効果は見られなかった。今後とも事後指導をさらに徹底することにより、効果を高めたい。 		
	<p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路行事の事後指導を充実させる。 ・3年生は、早い段階での事後指導で、効果はあった。 		

令和2年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析 (第2回)

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 9		<進路指導部>		
	生徒	保護者	教員	
	学校は、進路に関する情報を充分提供している。	学校は、進路に関する情報を充分提供している。	学校は、進路に関する情報を充分提供している。	
結果	教員			
	保護者			
	生徒			
原因及び反省	<p>・保護者は、「A」と「B」の合計が第1回より、わずかに増え、逆に生徒のほうが、わずかに減少した。「進路だより」をメール配信やHPにアップしているが、学年において、進路意識に温度差がある。</p>			
	<p>・「進路だより」毎回は、ホームページにアップしているが、そのこと（ホームページにアップしたこと）などを改めて情報発信する。 ・3学年は、進路決定の時期でもあり、自ら進路情報を取り入れていた。</p>			
改善策	<p>・「進路だより」毎回は、ホームページにアップしているが、そのこと（ホームページにアップしたこと）などを改めて情報発信する。 ・3学年は、進路決定の時期でもあり、自ら進路情報を取り入れていた。</p>			

意識調査No. 10		<保健部・総務部・農業部>		
	生徒	保護者	教員	
	学校は、安全な学習環境づくり（コロナ感染防止等）に取り組んでいる。	学校は、安全な学習環境づくり（コロナ感染防止等）に取り組んでいる。	あなたは、安全な学習環境づくり（コロナ感染防止等）に努め、感染対策を生徒に指導している。	
結果	教員			
	保護者			
	生徒			
原因及び反省	<p>・学校は、コロナ感染防止をはじめ、安全な学習環境づくりに努めているとの評価が高かった。しかし、1学期と比べると、2学期は（芸能発表もあって）コロナ感染対策は、甘い面もあったのではないかと課題もあった。 ・3学期からは、さらにコロナ防止対策を意識させることとして、各教室には温度計・湿度計や消毒液が置かれ、昼休みには音楽を流し、会食の密を避ける取り組みも見られた。</p>			
	<p>・生徒に見える形で実施し、意識させる。 ・教員が、もっと高い意識を持って、換気やマスク着用を促す。</p>			
改善策	<p>・生徒に見える形で実施し、意識させる。 ・教員が、もっと高い意識を持って、換気やマスク着用を促す。</p>			

令和2年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析 (第2回)

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 11		<総務部・農業部>																									
	生徒	保護者	教員																								
	学校は、ホームページ掲載やメール発信などの情報発信に努めている。	学校は、ホームページ掲載やメール発信などの情報発信に努めている。	あなたは、ホームページの掲載に努め、メール配信を活用している。																								
結果	<table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>調査結果の割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A (%)</th> <th>B (%)</th> <th>C (%)</th> <th>D (%)</th> <th>無回答 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>18%</td> <td>40%</td> <td>43%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>36%</td> <td>53%</td> <td>10%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>29%</td> <td>46%</td> <td>23%</td> <td>3%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	無回答 (%)	教員	18%	40%	43%	0%	0%	保護者	36%	53%	10%	1%	0%	生徒	29%	46%	23%	3%	0%
	対象者	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	無回答 (%)																					
	教員	18%	40%	43%	0%	0%																					
	保護者	36%	53%	10%	1%	0%																					
生徒	29%	46%	23%	3%	0%																						
原因及び反省	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者がよくやってくれた。 ・全職員で当たるなど、情報発信の仕組みを作る。 																										
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各部、各科で担当者を作り、ホームページの掲載や一斉メール配信にあたる。 ・ホームページを見ない人（高齢の方など）もいるので、掲示板の活用も必要である。（相農ショップの予定など） 																										